STRIX Vol. 18, pp. 161-164, 2000

高知県内で保護されたカワリシロハラミズナギドリ（淡色型）

多々良成紀

高知県立のいち動物公園・〒781-5233 高知県香美郡野市町大谷738

はじめに

ミズナギドリ科（*Procellariidae*）の中のシロハラミズナギドリ属 *Pterodroma* には30種近くが属し，日本近海ではその内の８ないしは９種が記録されている（中村 1979, Brazil 1991）．その中の１種，カワリシロハラミズナギドリ *Pterodroma neglecta* は，南太平洋亜熱帯海域で繁殖し北太平洋に渡るが，1931年に南大東島で初報告（黒田 1932）されて以来，1975年の本州中部太平洋沖（Nakamura & Tanaka 1976），1986年の本州北部（藤波 1986），そして1987年に高知県の東隣の徳島県での落鳥例（日本野鳥の会野鳥記録委員会 1989）など，国内や近海での確認例はごくわずかである．

今回，高知県内で保護された海鳥１羽をカワリシロハラミズナギドリと同定したので，その概要を報告する．

保護の状況

台風10号通過当日の1998年10月17日，高知県中部東寄りの内陸，香美郡香北町（33°39'N, 133°47'E）で濡れて衰弱しているところを保護され，高知県立のいち動物公園に搬入された．外観上の損傷は，翼端が少し摩耗している程度であった．看護の結果，活力の充分な回復を得たため，同年10月31日，香美郡吉川村の物部川河口にて放鳥した．

外部形態

全長は373mm，開翼長890mm以上（初列風切羽先端の欠損のため），片翼長281mm以上；尾長108mm，嘴峰長28mm，ふ蹠長32mm，体重422gであった．大型シロハラミズナギドリの仲間としては比較的ずんぐりとした体型をしており，特に頭頸部は太く感じられた（図１）．尾はやや短く，先端中央部が鈍角で縦長の五角形を成していた．

体幹は，黒褐色の背部に対し，頭頸部から体下面にかけては基本的に白色であるが，前頭部から頭頂部にかけてと，眼と頬部の境界は灰褐色，また頸部は淡灰褐色で不明瞭な首輪状を呈していた．翼は基本的に黒褐色であるが，下面は全体的にやや淡く，さらに初列風切が黒褐色の先端部を除いて白色のため，翼下面の初列風切に広範な白色斑を成していた（図

1999年12月３日 受理

キーワード：外部形態，活動域，カワリシロハラミズナギドリ，高知県，台風

図1．保護されたカワリシロハラミズナギドリ．
Fig. 1. The Kermadec Petrel saved In Kochi.

図2．保護されたカワリシロハラミズナギドリの翼上面と下面.(読売新聞高知支局の好意による)
Fig. 2. Upperwing and underwing of the Kermadec Petrel. (Courtesy of Yomiuri newspaper Kochi branch)

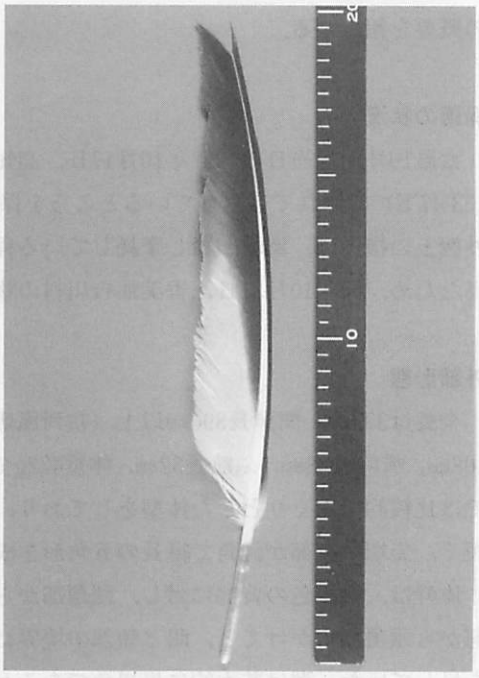

図3．脱落したカワリシロハラミズナギドリの左翼初列風切の最外側羽．白い斑紋と羽軸に注目．
Fig. 3. External primary of the left wing of Kermadec Petrel. Attention to the white inner web and shaft.

2)．また下面雨覆前縁にも白色部を認めた．これら翼下面の様相は，羽毛が暗色の羽縁を除いて基本的に白色である結果と思われた．初列風切の羽軸はわずかに黄色を帯びた白色で，特に黒褐色の翼上面においてこれら羽軸が白く見えるのが特徴的であった(図3)．尾は上下面ともに黒褐色であった．脚は灰色がかったピンク色だが，指と水掻きは黒色であった．嘴と眼は黒色であった．

分布域，および外部形態の特徴を鑑みて，本個体はカワリシロハラミズナギドリ，ムナフシロハラミズナギドリ *P. arminjoniana* のいずれかの淡色型と考えられた．Harrison (1985, 1987) の記載によると，前者は体長380mm，開翼長920mm，後者は同370mm，950mmで，両種の計測値は近似しているが，ずんぐりとした体幹や少し短い翼など，その形状やバランスは比較的前者に近いと思われた．体色については，全身ほぼ完全に前者に符合した．特に初列風切の羽軸は白く，翼上面でその羽軸が白く見えるのは確定的な特徴であった．以上から，本個体をカワリシロハラミズナギドリと同定した．

考　察

本個体が保護された1998年10月17日に当地を通過した台風10号は，フィリピン東方から台湾東方を時速約20kmで北上し，南西諸島西方を次第に東寄りにコースを変えスピードを上げながら日本列島を縦断した．高知県はこの進路の右側に入り，10月17日に最接近した．当初この台風は超大型で，日本列島にさしかかるまでは強風域が半径500kmにもおよんでいたが，漸次その勢力は弱まった．一般的に台風の進路の右側域で巻き込まれたとするならば，当時本個体は南西諸島周辺から四国南方沖にかけてのいずれかの海域で活動していた可能性が考えられる．また，同じく本県内で翌18日にシロハラミズナギドリ *P. hypoleuca* 1羽が保護されたが（著者ほか 未発表)，これは両種の活動域が近かったか，あるいは重複していたことを暗示し，この時期の活動域を考える上で大変興味深い．Nakamura & Tanaka (1976) も本州中部太平洋沖でカワリシロハラミズナギドリを観察した報告の中で，本種に北太平洋北西部海域に達する長距離の渡りがある可能性を指摘している．

未だ生態が充分解明されていないこれら遠洋性鳥類は，本県ではしばしば保護されるものの，放鳥後の追跡調査などのシステムは準備されていない．しかるべきいくつかの機関が協力して，全国的，さらにはもっと広域的な調査体制を整えることが，これらの生態解明と保護に寄与するものと考える．

謝　辞

徳島県の落鳥例など情報交換をさせていただいた日本野鳥の会徳島県支部，曽良寛武氏，文献検索などご助力いただいた日本野鳥の会高知支部，西村公志氏，写真を提供いただいた読売新聞高知支局，ならびに看護から鑑定にわたってご助力いただいた高知県立のいち動物公園のスタッフ各位に深謝する．

著者は当初，本個体をオオシロハラミズナギドリ *P. externa* と推定したため，放鳥時にその種名で

報道された．この報告をもって訂正したい．

引用文献

Brazil, M.A. 1991. The Birds of Japan. Christopher Helm, London.

藤波不二雄. 1986. 道東および釧路航路の探鳥記録. ワイルドライフ・レポート 4: 82-91.

Harrison, P. 1985. Seabirds, an identification guide (Revised ed.). Houghton Mifflin Company, New York.

Harrison, P. 1987. Seabirds of the World, a photographic guide. Christopher Helm, London.

黒田長禮. 1932. 大東列島より初めて知られる鳥類. 鳥 33/34: 261-262.

中村一恵. 1979. 日本近海産シロハラミズナギドリ属の分類と分布. 海洋と生物 1(1): 24-31.

Nakamura, K. & Tanaka, Y. 1976. A record of the Kermadec Petrel *Pterodromaneglecta*. Misc. Rep. Yamashina Inst. Ornith. 45: 108-112.

日本野鳥の会野鳥記録委員会. 1989. 野鳥情報. Strix 8: 348.

A Record of the Kermadec Petrel *Pterodroma neglecta* saved in Kochi

Seiki Tatara

Noichi Zoological Park of Kochi Prefecture, 738 Otani, Noichi, Kami-gun, Kochi

A weakened petrel was saved during the passage of the typhoon on 17th October 1998 in Kochi. It was identified as the Kermadec Petrel *Pterodroma neglecta* by morphological characteristics.

Key words: Kermadec Petrel, Kochi, migration, morphological characteristics, typhoon